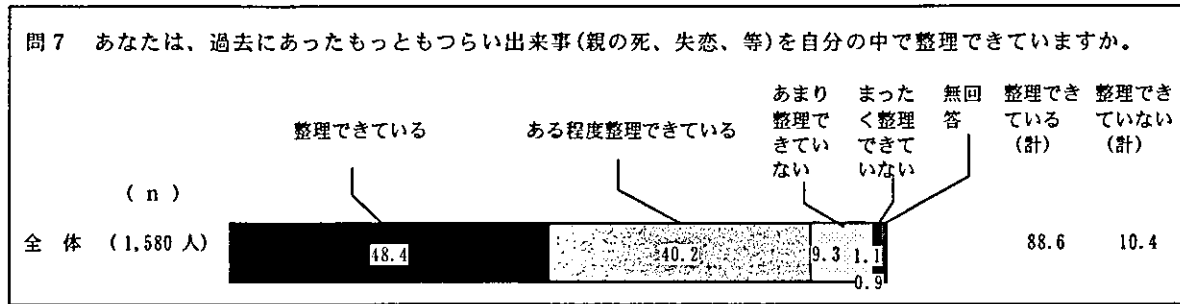


## 7 過去のつらい出来事の整理

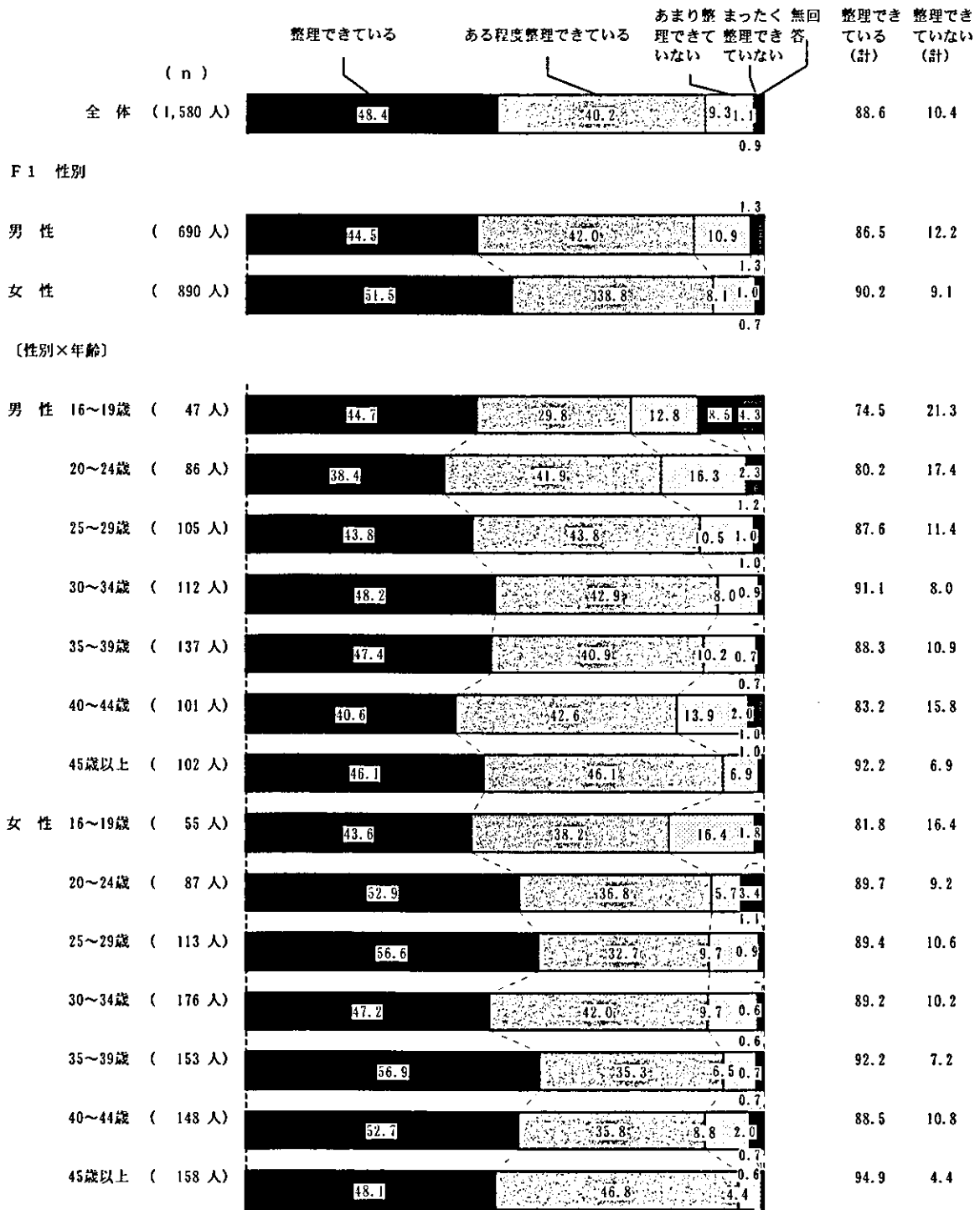


親の死や失恋などの過去にあったもっともつらい出来事を自分の中で「整理できている」(48.4%)という者は5割弱で、「ある程度整理できている」(40.2%)という者を合わせると9割近くが『整理できている』と答えている。

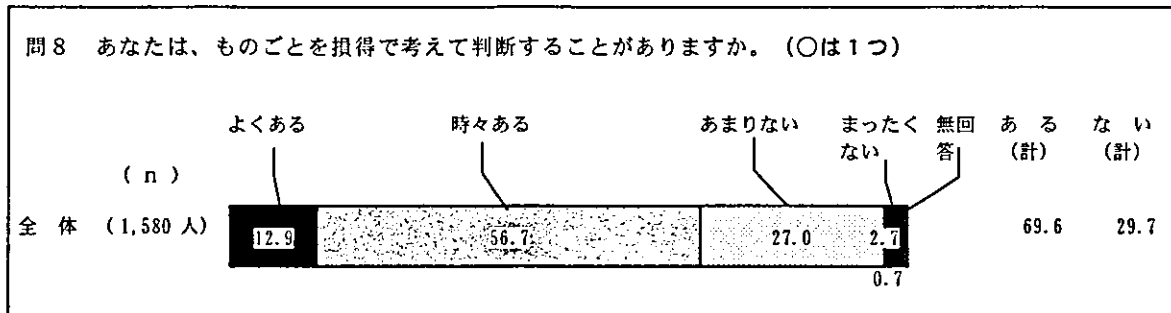
性別にみると(図1-7-1)、過去にあったもっともつらい出来事を自分の中で「整理できている」(男性44.5%、女性51.5%)という者は女性で過半数と、男性より多くなっている。

性・年齢別にみると(図1-7-1)、男性の20~24歳と該当数は少ないが女性の16~19歳で「あまり整理できていない」(男性16.3%、女性16.4%)という者が2割弱と、他の年齢層より多くなっている。

図1-7-1 過去のつらい出来事の整理（性別、性・年齢別）



## 8 ものごとの判断基準

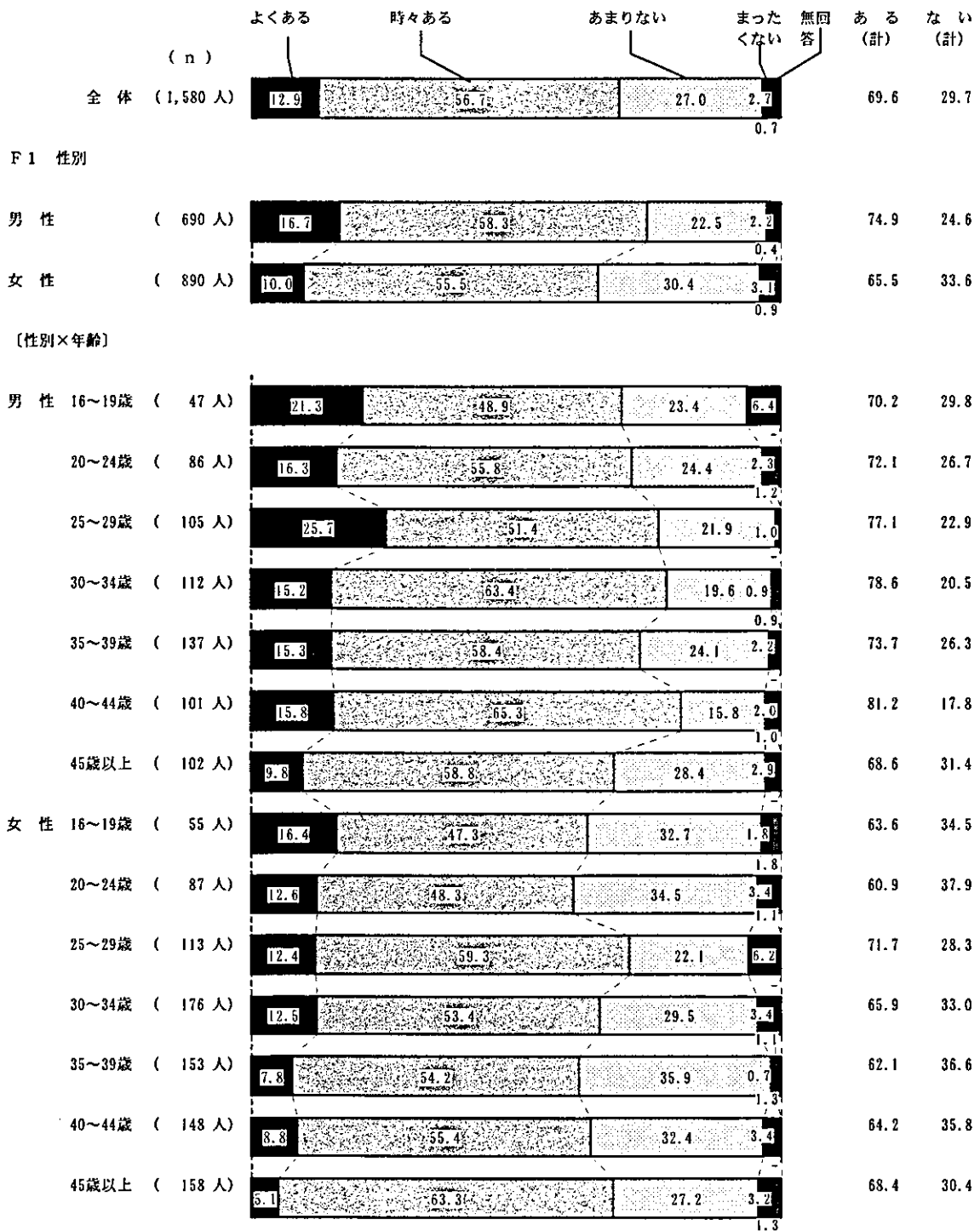


ものごとを損得で考えて判断することがあるかを聞いたところ、「よくある」という者は12.9%で、「時々ある」(56.7%)という者を合わせると、7割がものごとを損得で考えて判断することが『ある』と答えている。

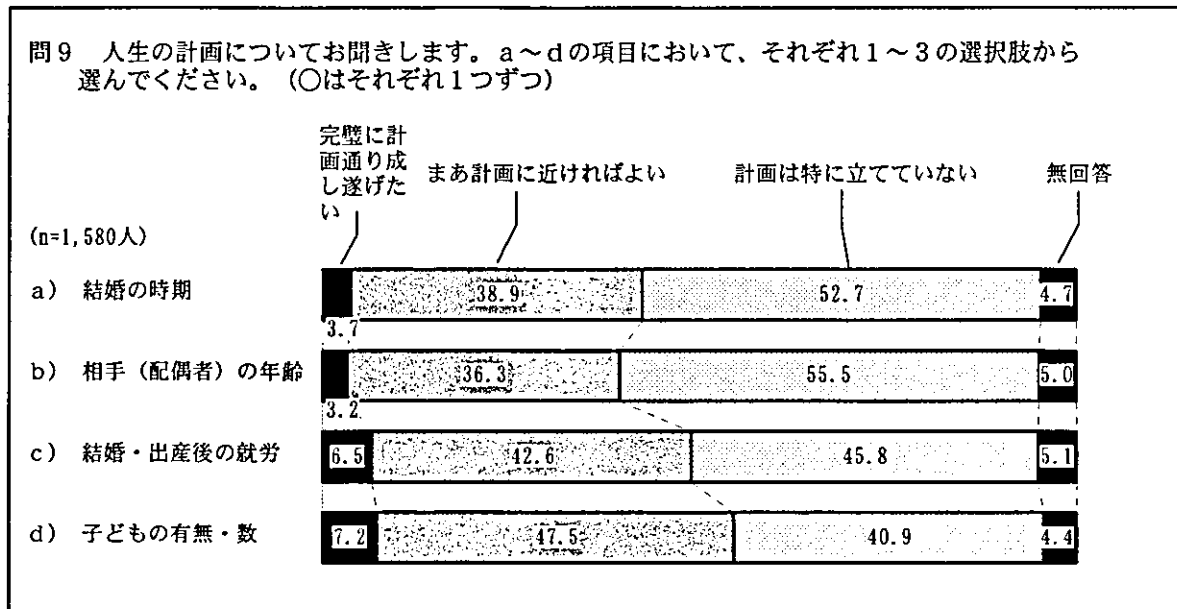
性別にみると(図1-8-1)、ものごとを損得で考えて判断することが「よくある」(男性16.7%、女性10.0%)という者は女性より男性に多くなっている。

性・年齢別にみると(図1-8-1)、ものごとを損得で考えて判断することが「よくある」という者は男性の25~29歳(25.7%)の年齢層で、4人に1人の割合となっている。

図1-8-1 ものごとの判断基準（性別、性・年齢別）



## 9 人生の計画



人生の計画について“結婚の時期”“相手(配偶者)の年齢”“結婚・出産後の就労”“子どもの有無・数”の4項目について聞いたところ、「完璧に計画通り成し遂げたい」という者は、“子どもの有無・数”が7.2%、“結婚・出産後の就労”が6.5%となっており、「まあ計画に近ければよい」(子どもの有無47.5%、結婚・出産後の就労42.6%)という者を合わせると、半数以上が何らかの計画をもっている。

一方、“相手(配偶者)の年齢”と“結婚の時期”は、「計画は特に立てていない」(相手の年齢55.5%、結婚の時期52.7%)という者が過半数である。

各項目を性別にみると(図1-9-1)、まず“結婚の時期”について「完璧に計画通り成し遂げたい」(男性3.6%、女性3.7%)という者に男女差はみられないが、「まあ計画に近ければよい」(同36.5%、40.7%)という者は男性より女性に、「計画は特に立てていない」(同55.2%、50.8%)という者は女性より男性に、それぞれやや多くなっている。

性・年齢別にみると(図1-9-1)、「完璧に計画通り成し遂げたい」という者は25～29歳の女性(6.2%)にやや多くなっている。また、「まあ計画に近ければよい」という者は男性の20～24歳の女性の20～34歳の年齢層で多くなっている。

“相手(配偶者)の年齢”について性別にみると(図1-9-2)、「完璧に計画通り成し遂げたい」(男性3.3%、女性3.0%)という者は男女ともに3%程度で差はみられないが、「まあ計画に近ければよい」(同33.9%、38.2%)という者は男性より女性に、「計画は特に立てていない」(同57.8%、53.7%)という者は女性より男性に、それぞれやや多くなっている。

性・年齢別にみると(図1-9-2)、該当数は少ないが16～19歳の女性で「完璧に計画通り成し遂げたい」(9.1%)という者が1割近くと、他の年齢層よりやや多くなっている。また、女性の20～34歳の年齢層で「まあ計画に近ければよい」が4割強と、他の年齢層より多くなっている。一方、男性の25～29歳では「計画は特に立てていない」(64.8%)という者がほぼ3人に2人の割合となっている。

図1-9-1 人生の計画-“結婚の時期”(性別、性・年齢別)

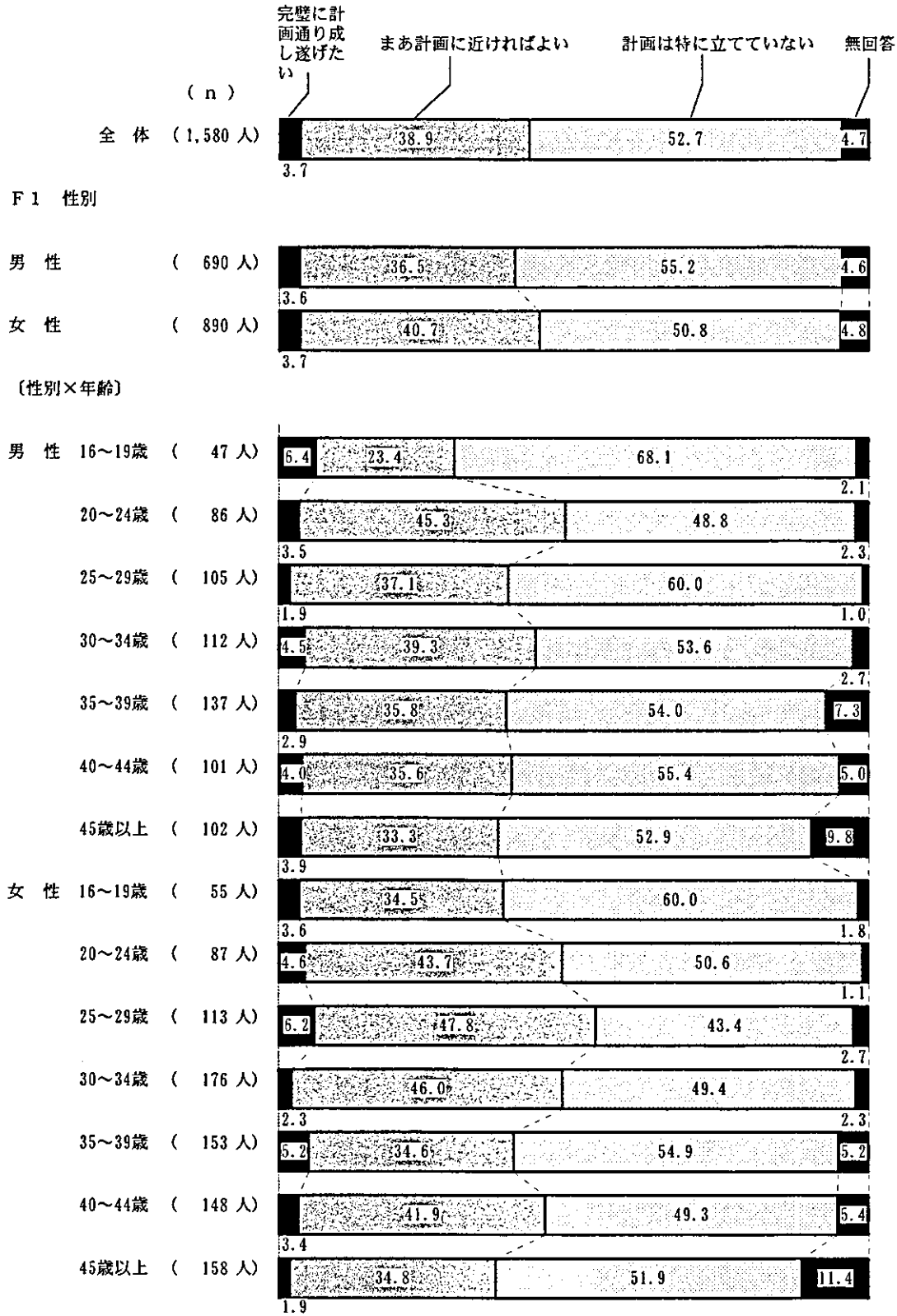
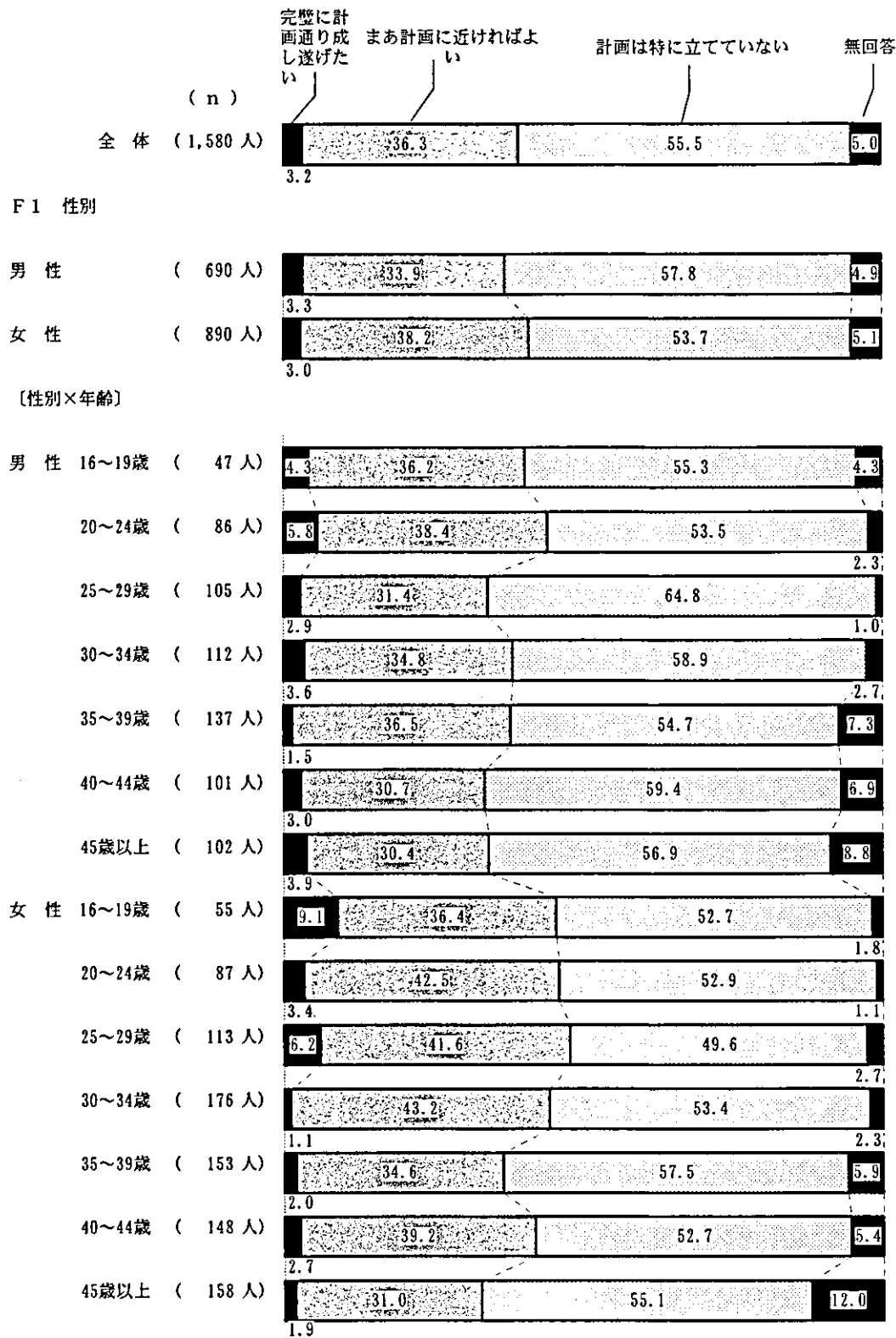


図1-9-2 人生の計画-“相手(配偶者)の年齢”(性別、性・年齢別)



“結婚・出産後の就労”を性別にみると（図1-9-3）、「まあ計画に近ければよい」（男性40.1%、女性44.5%）という者が男性より女性にやや多くなっている。

性・年齢別にみると（図1-9-3）、「完璧に計画通り成し遂げたい」という者は、男女とも20代で1割前後となっており、若年層にやや多い傾向がある。「まあ計画に近ければよい」という者は、女性30～34歳（53.4%）の年齢層で過半数である。また、該当数は少ないが女性16～19歳の年齢層では、「計画は特に立てていない」（60.0%）という者が6割となっている。

“子どもの有無・数”についての計画を男女別にみると（図1-9-4）、「まあ計画に近ければよい」（男性41.7%、女性52.0%）という者は女性の過半数と、男性を10ポイント上回っている。一方、男性では「計画は特に立てていない」（47.1%）という者が半数近い。

性・年齢別にみると（図1-9-4）、「完璧に計画通り成し遂げたい」という者は男性の20～24歳で15.1%、女性の25～29歳で14.2%と、他の年齢層より多くなっている。

また、「まあ計画に近ければよい」は女性の20～44歳の年齢層で5割を上回っている。一方、男性の25～34歳と該当数は少ないが女性の16～19歳の年齢層では半数以上が「計画は特に立てていない」と答えている。



図1-9-3 人生の計画-“結婚・出産後の就労”(性別、性・年齢別)

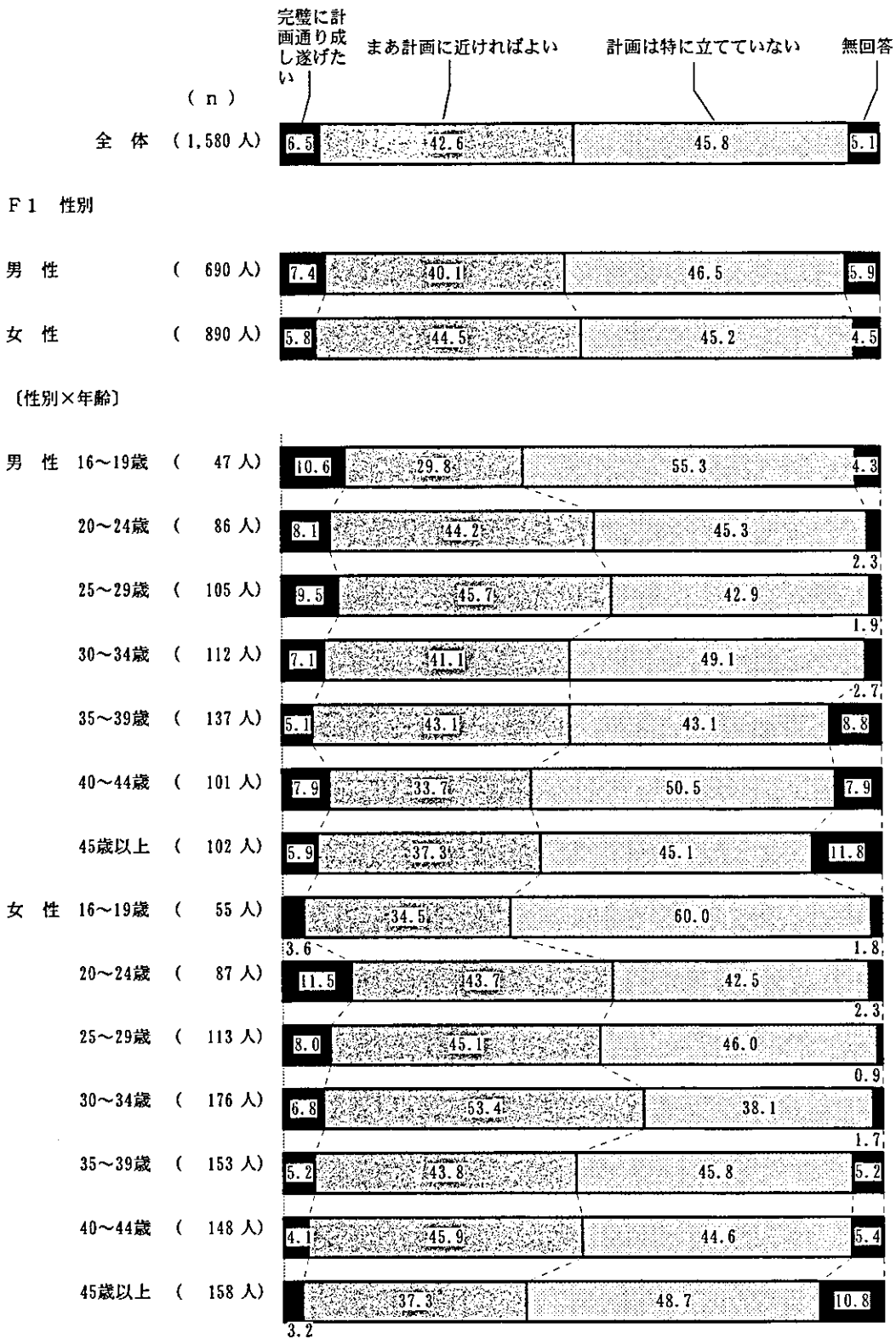
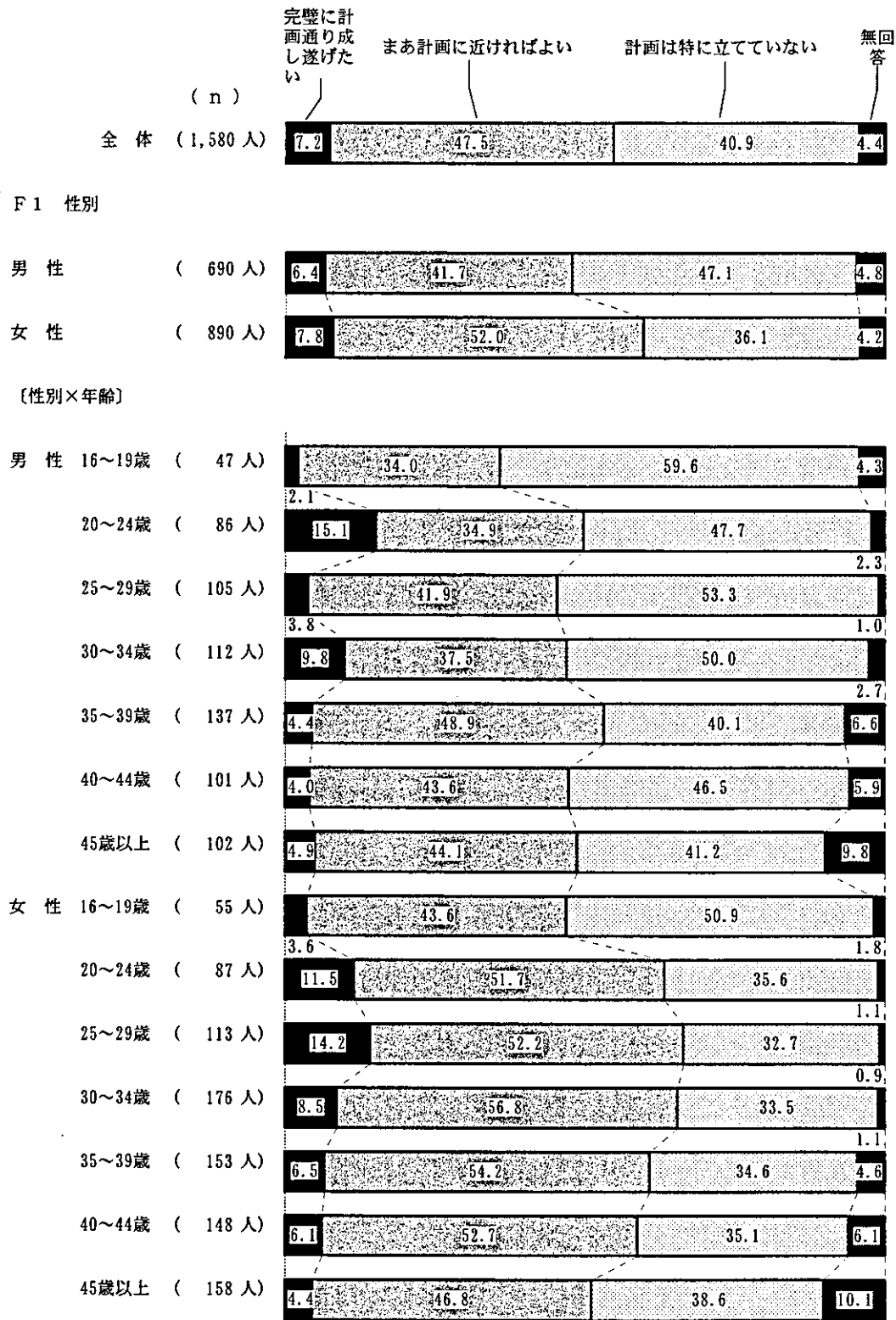
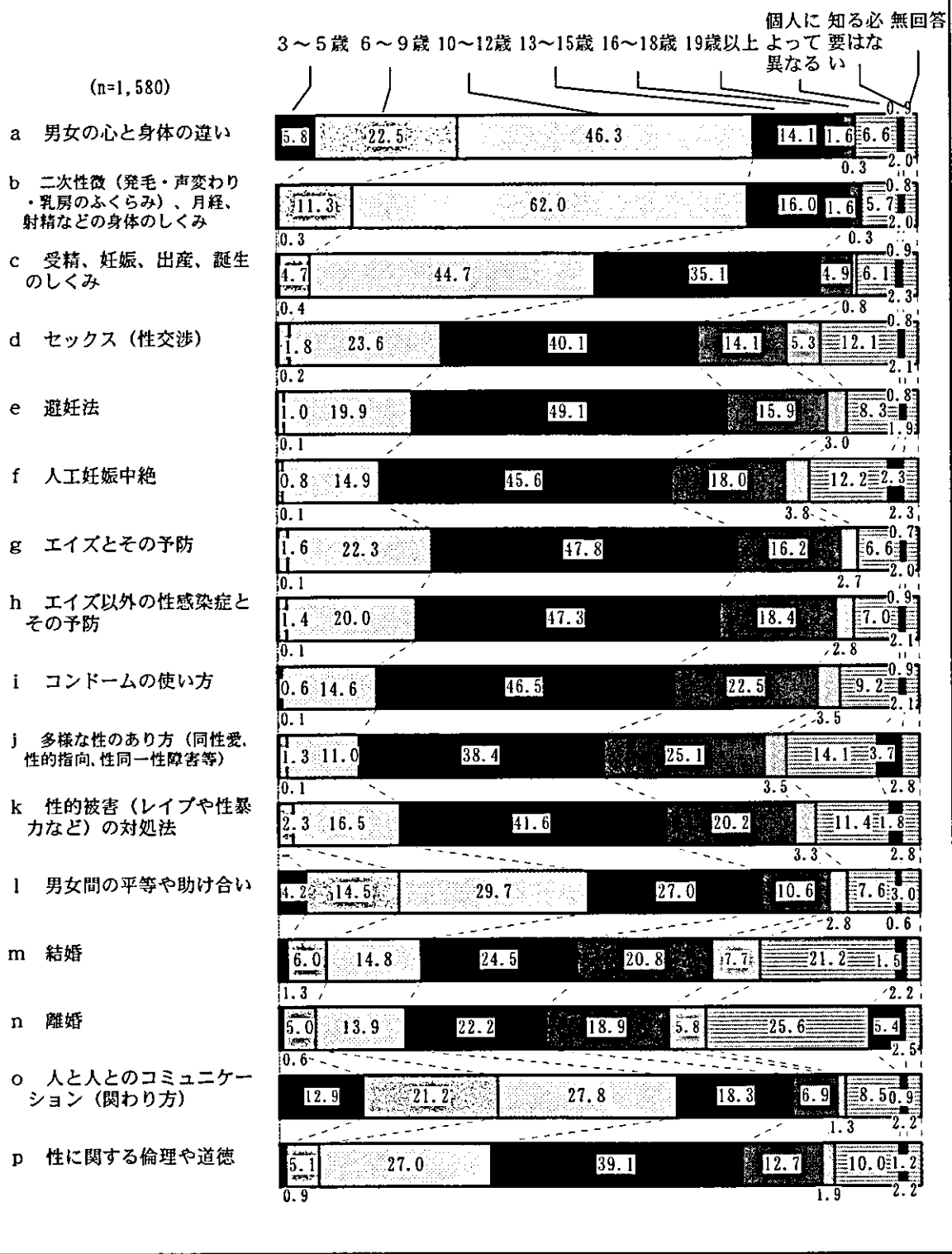


図1-9-4 人生の計画-“子どもの有無・数”(性別、性・年齢別)



# 10 性に関する事柄を知るべき時期

問10 性に関する事柄について、あなたは一般的に、何歳くらいの時に知るべきだと思いますか。a～pのそれぞれについてお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)



性に関する事柄を 16 項目あげ、それぞれについて一般的には何歳くらいの時に知るべきだと思うかを聞いた。

“二次性徴（発毛・声変わり・乳房のふくらみ）、月経、射精などの身体のしくみ”については、小学校高学年にあたる「10～12 歳」（62.0%）くらいの時に知るべきだという者が 6 割以上を占めている。“男女の心と身体の違い”と“受精、妊娠、出産、誕生のしくみ”も「10～12 歳」（男女の違い 46.3%、しくみ 44.7%）に知るべきだという者が 5 割近くで最も多く、次いで“男女の心と身体の違い”は小学校低学年にあたる「6～9 歳」（22.5%）に、“受精、妊娠、出産、誕生のしくみ”は中学生にあたる「13～15 歳」（35.1%）に、それぞれ知るべきだという者が最も多くなっている。

ほかに「13～15 歳」に知るべきであるという者が多いのは、“避妊法”（49.1%）、“エイズとその予防”（47.8%）、“エイズ以外の性感染症とその予防”（47.3%）、“コンドームの使い方”（46.5%）、“人工妊娠中絶”（45.6%）などで 5 割近い人が、中学生の時期に知るべきであると考えている。

“人と人とのコミュニケーション（関わり方）”については、未就学期の「3～5 歳」（12.9%）に知るべきだという人が 1 割強おり、小学校低学年にあたる「6～9 歳」（21.2%）という者が 2 割強で、他の項目に比べ早い時期に知るべきだと考える者が多くなっている。

一方、“離婚”や“結婚”については、「個人によって異なる」（離婚 25.6%、結婚 21.2%）という者がそれぞれ 2 割を上回り、他の項目より多くなっている。

それぞれの項目について性別と性・年齢別にみていく。

まず、“男女の心と身体の違い”については（図 1-10-1）、男女とも小学校高学年にあたる「10～12 歳」（男性 45.7%、女性 46.7%）に知るべきだという者が 4 割台で最も多く、次いで小学校低学年にあたる「6～9 歳」（同 19.1%、25.1%）となっているが、男性より女性の方が低年齢で知るべきであるとする者がやや多くなっている。

性・年齢別にみると（図 1-10-1）、いずれの性・年齢層でも「10～12 歳」に知るべきであるという者が最も多くなっているが、男性の 35～39 歳と女性の 30～44 歳の年齢層では「6～9 歳」で知るべきだと考える者が 3 割前後と、他の年齢層よりやや多くなっている。

“二次性徴、月経、射精などの身体のしくみ”を知る時期を性別にみると（図 1-10-2）、男女とも小学校高学年にあたる「10～12 歳」（男性 57.4%、女性 65.5%）には知るべきだという者が最も多くなっているが、特に女性ではほぼ 3 人に 2 人の割合と男性を 8 ポイント上回っている。次いで男性では中学生にあたる「13～15 歳」（20.9%）が、女性では小学校低学年にあたる「6～9 歳」（14.2%）が多く、男性より女性の方が低年齢で知るべきだと考える者が多い。

性・年齢別にみても（図 1-10-2）、いずれの層でも「10～12 歳」が最も多く、次いで男性の 25～44 歳では中学生にあたる「13～15 歳」で 2 割台と他の性・年齢層より多くなっている。また、該当数は少ないが女性の 16～19 歳と 45 歳以上では「6～9 歳」に知るべきであると 2 割近くの者が考えている。

図1-10-1 性に関する事柄を知るべき時期-“男女の心と身体の違い”(性別、性・年齢別)

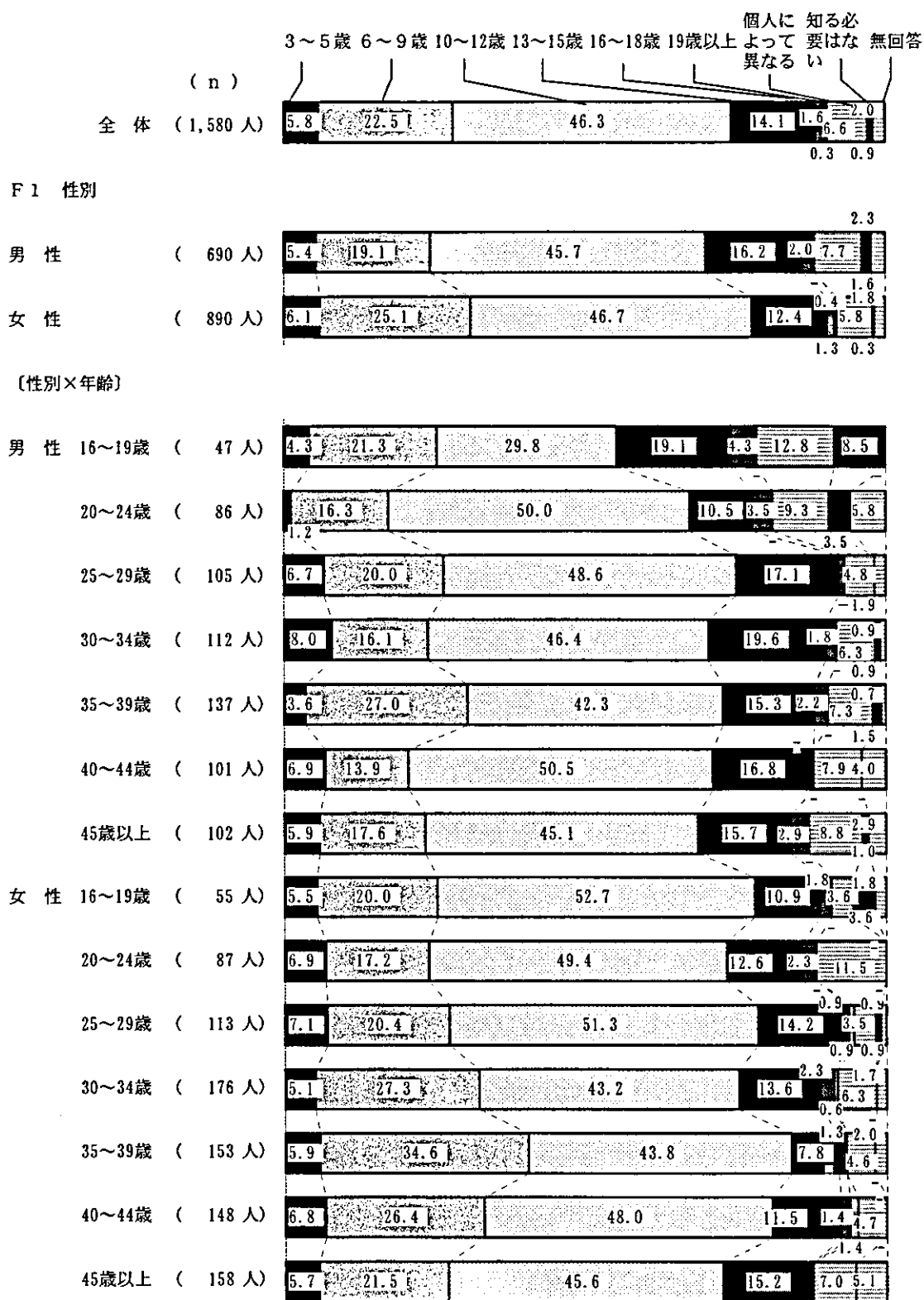
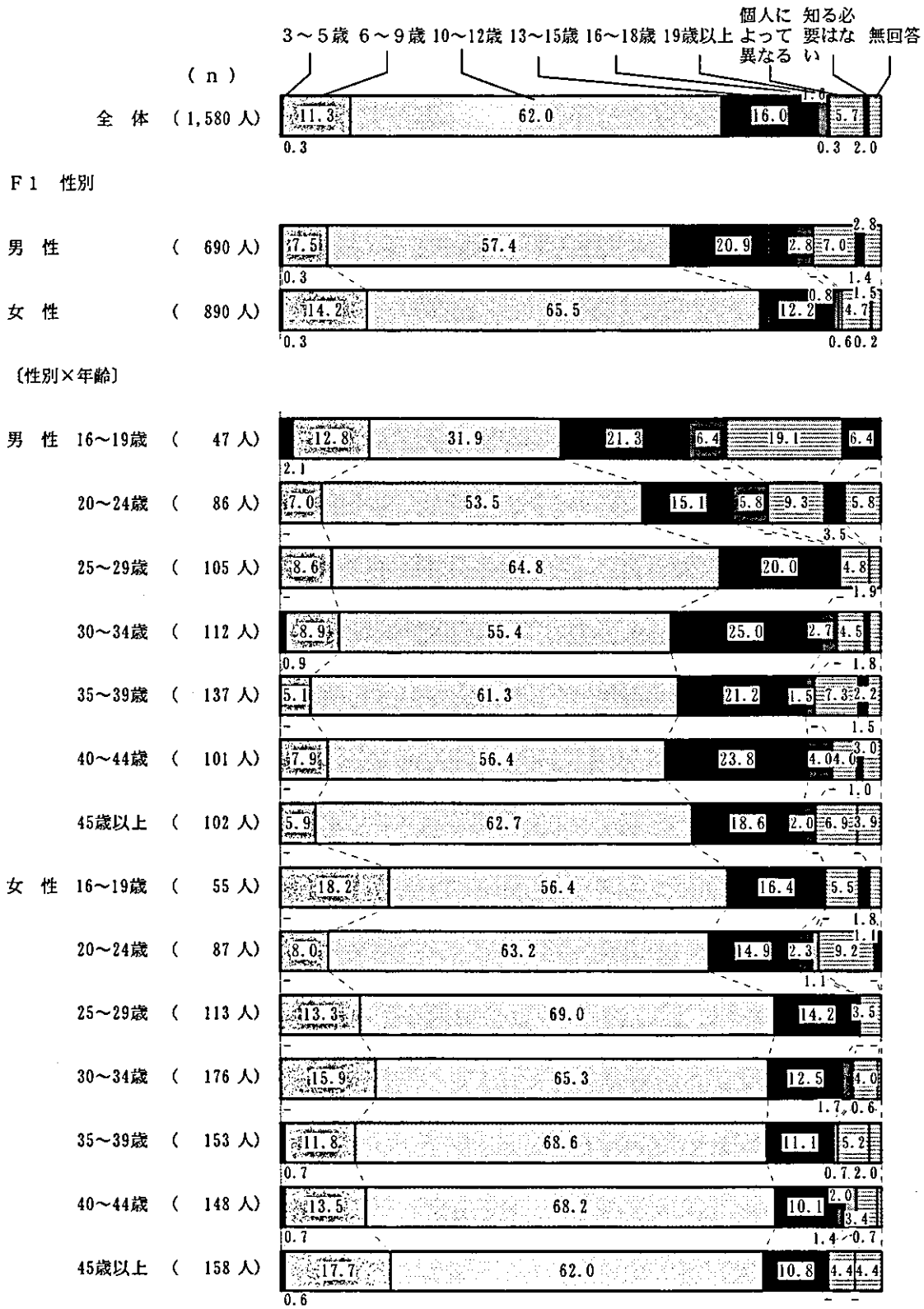


図1-10-2 性に関する事柄を知るべき時期－“二次性徴（発毛・声変わり・乳房のふくらみ）、  
月経、射精などの身体のしくみ”（性別、性・年齢別）



“受精、妊娠、出産、誕生のしくみ”を知る時期については（図1-10-3）、性別による大きな差はみられない。

また、性・年齢別にみると（図1-10-3）、男性の25～29歳と女性の45歳以上で小学校高学年にあたる「10～12歳」に知るべきだという者が半数を占めている。

“セックス（性交渉）”についても、性別による差はみられない（図1-10-4）。

性・年齢別にみると（図1-10-4）、男性の30～34歳と女性の25～29歳、40～44歳で中学生にあたる「13～15歳」に知るべきだという者が5割前後いる。

“避妊法”について知る時期についても、性別による差はみられない（図1-10-5）。

性・年齢別にみると（図1-10-5）、女性の20～29歳の年齢層で、小学校高学年にあたる「10～12歳」に知るべきだという者が3割弱となっている。

“人工妊娠中絶”についても、性別による大きな差はみられない（図1-10-6）。

性・年齢別にみると（図1-10-6）、該当数は少ないが女性の16～19歳の年齢層で、その前の世代である「13～15歳」（56.4%）で知るべきだと考える者が過半数を占めている。

“エイズとその予防”について知る時期を性別にみても（図1-10-7）、大きな差はみられない。

また、性・年齢別にみると（図1-10-7）、中学生にあたる「13～15歳」に知るべきだという者が男性の30～34歳（55.4%）と該当数は少ないが女性の16～19歳（61.8%）と35～39歳（56.2%）で、他の性・年齢層より多くなっている。

“エイズ以外の性感染症とその予防”を知る時期についても、性別による差はみられない（図1-10-8）。

性・年齢別にみると（図1-10-8）、該当数は少ないが女性の16～19歳で中学生にあたる「13～15歳」（56.4%）に知るべきだという者が6割弱いる。また、小学校高学年にあたる「10～12歳」に知るべきだという者は男性の25～29歳（26.7%）で、高校生にあたる「16～18歳」知るべきだという者は男性の45歳以上（28.4%）で、それぞれ3割弱となっている。

“コンドームの使い方”を知るべき時期については、男性より女性の方がやや低年齢を答える傾向がある（図1-10-9）。

性・年齢別にみると（図1-10-9）、中学生にあたる「13～15歳」に知るべきだという者は男性の30～34歳（55.4%）で過半数を占めている。また、高校生にあたる「16～18歳」に知るべきだという者は男性の40歳以上と女性の40～44歳で3割前後、小学校高学年にあたる「10～12歳」に知るべきだという者は男性の20～29歳と女性の20～34歳で2割前後と、それぞれ他の性・年齢層より多くなっている。

図1-10-3 性に関する事柄を知るべき時期-“受精、妊娠、出産、誕生のしくみ”

(性別、性・年齢別)

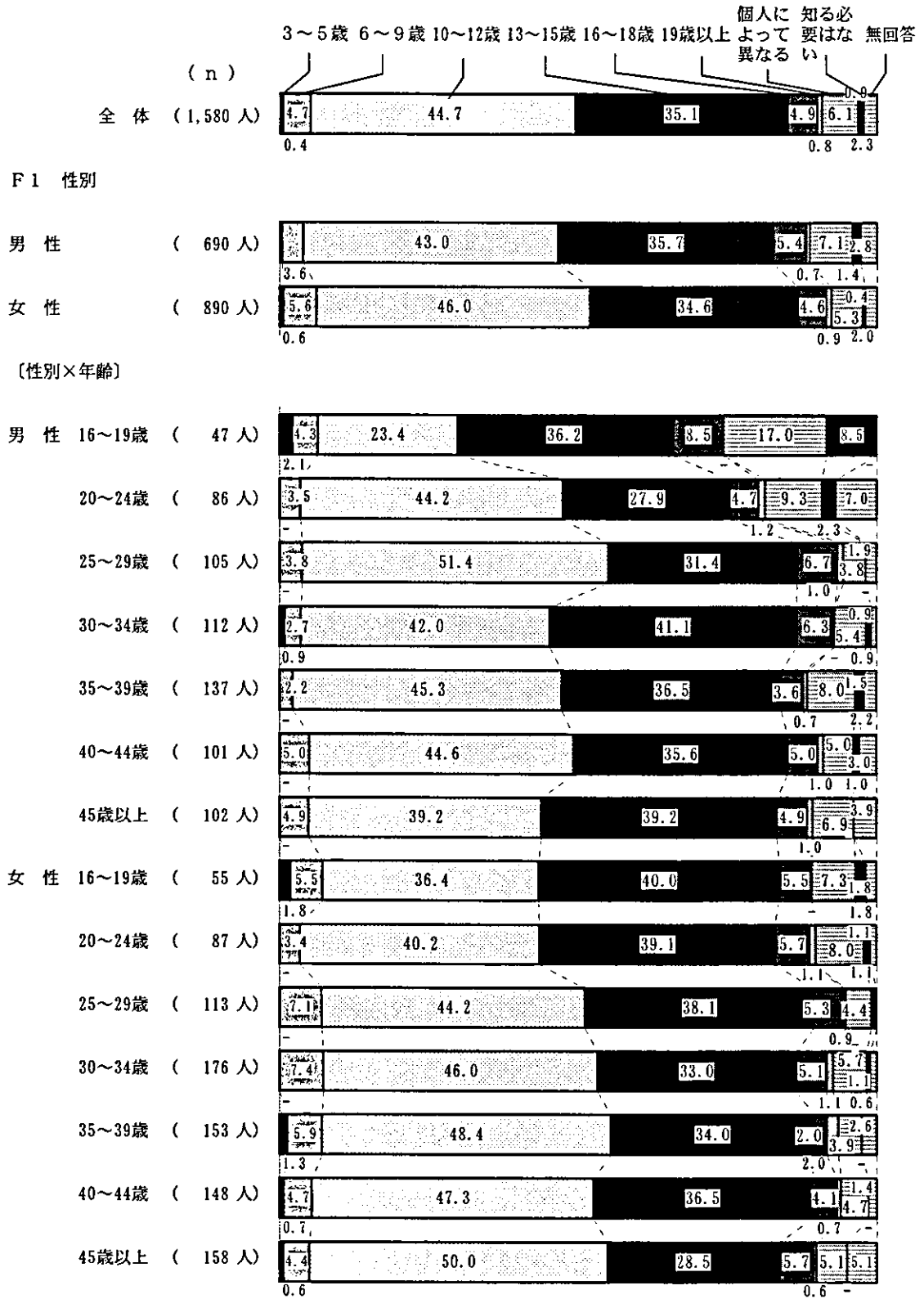




図1-10-4 性に関する事柄を知るべき時期-“セックス(性交渉)”

(性別、性・年齢別)

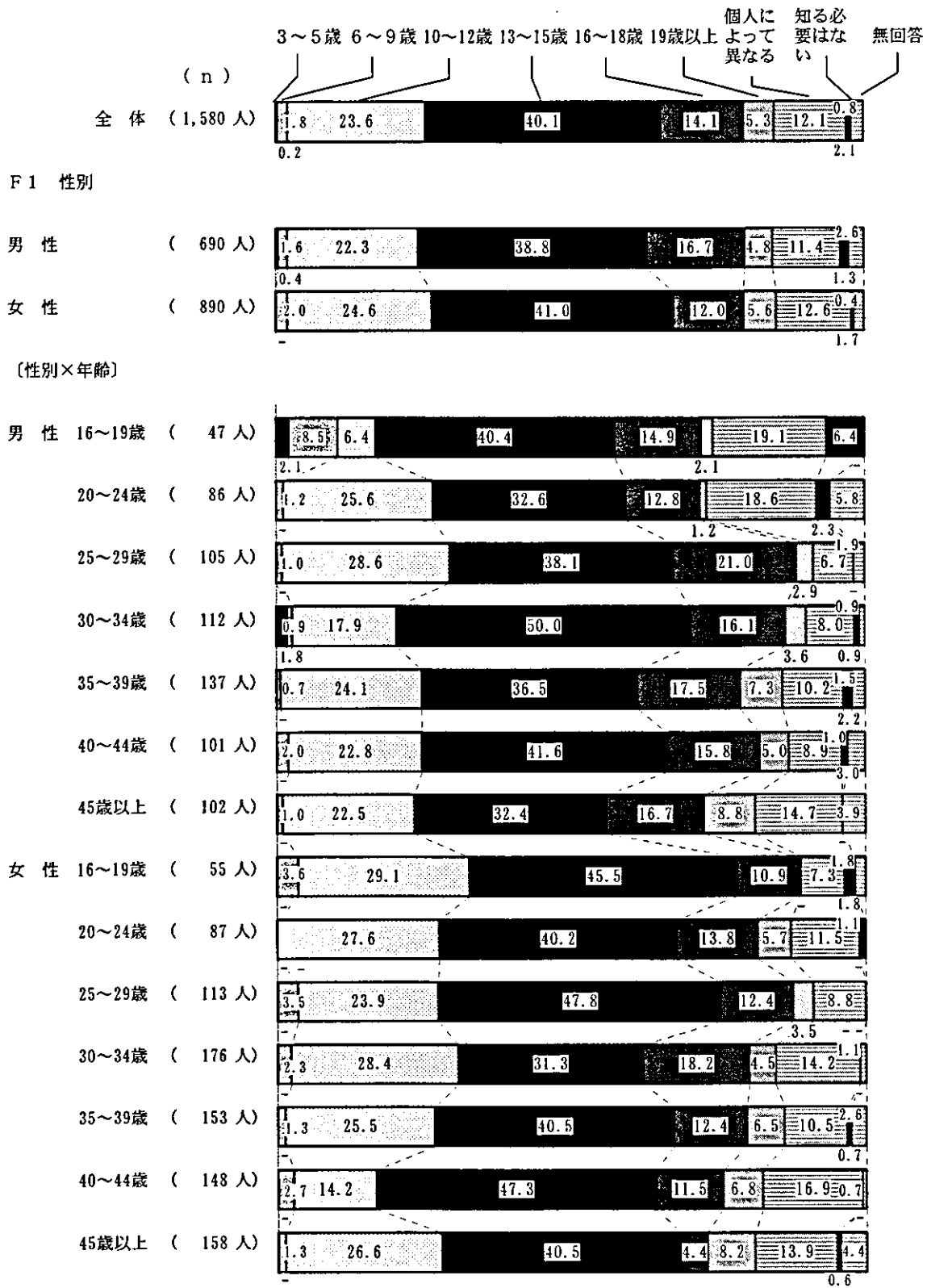






図1-10-7 性に関する事柄を知るべき時期-“エイズとその予防”

(性別、性・年齢別)

